

熊本県立鹿本商工高等学校 令和3年度(2021年度)学校評価表

1 学校教育目標
令和3年度(2021年度)熊本県教育委員会各課の重点及び取組の方向性をふまえ、本校の校訓「創造」「礼節」「勤労」のもと、励まし合い・認め合い・個性を高めあう教育をとおして、誠実で自立した産業人の育成を目指す。これを大きな目標として、地域と連携し、基本的な生活習慣の確立、学力と教科指導力の向上、キャリア教育・道徳教育・主権者教育を充実させ、活力ある学校組織作りを進める。

2 本年度の重点目標
(1)学力の向上と教科指導の充実 ・基礎学力の向上 ・習熟度別授業の効果的な実践 ・教科指導の充実
(2)生徒指導の充実 ・生徒支援の充実 ・情報モラル教育の徹底 ・交通安全指導の徹底
(3)キャリア教育の充実 ・将来への目的意識の確立 ・望ましい勤労観・職業観の育成 ・個に応じた進路指導
(4)特別支援教育の推進 ・困り感を抱える生徒の把握 ・組織的な支援体制の構築
(5)いじめの防止等 ・いじめのない学校づくり ・いじめの早期発見・早期対応の取組み
(6)地域連携 ・地域に開かれた学校づくり(公開授業・商工フェスタ・奎堂文庫展示資料室の一般公開 ※ただし、新型コロナウイルス感染症の状況を勘案して判断。 ・コミュニティ・スクールの機能の確立(総合型への円滑な移行) ・ボランティア活動の推進、小中学校との交流、積極的な広報活動 ・菊池支援学校高等部山鹿分教室との交流 ※ただし、新型コロナウイルス感染症の状況を勘案して判断。
(7)人権教育、道徳教育、主権者教育の充実 ・すべての教育活動において実践

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	育友会活動の充実	行事参加率の増加	各行事の実施と協力参加者の増加 (R1:総会 58.9%、フェスタ 26.0%、長距離走大会 18.0%)	安心安全メール活用や早めの文書通知	A	全行事が中止であったため評価なし
	親子対話の促進	調査用紙等の文書回収率の増加	前年度比 5%増加 (R2: 育友会総会 93.3%、他行事中止)		B	本年度はコロナ感染症の影響により文書配付は総会(書面決議)のみであったが99%の回収率であり、ほぼ完璧であった。
		保護者による情報発信の取組	毎学期(3回)の発行	育友会新聞「雲生るる」の発行	B	行事の中止に加えて広報委員会の開催の見合わせ等困難な中で、目標どおり3回の発行ができたことは大変良かった。
	入学者確保に向けた取組の充実	近隣中学校への情報提供の充実	・中学校への配布物数の増加、内容の充実 ・ホームページ記事の掲載数の増加	・パンフレット、広報ポスター、チラシの制作、配布 ・ホームページの活用	B	中学校訪問や説明会、ホームページを通して、本校の特色や生徒の活躍を伝えた。
		体験入学の参加者の確保	・体験入学参加者数 200 名以上	体験入学用ポスター、チラシの制作、配布	C	近隣校との日程が重なったこともあり95名の中学生の参加となったが、本校に興味を持つ多くの声を聞くことができた。
学力向上	基礎学力の向上	観点別学習状況評価に関する教務規定の作成	・学期毎の評価 ・学年末の評価と評定	・定期考査後のシミュレーション実施 ・教務規定の文書化	B	シミュレーションの結果を受けて、次年度の方針を定めることができた。

		ICT機器活用の充実	・職員研修の実施 ・授業での活用	・「生徒向け1人1台学習用端末」整備に向けた職員への支援体制を整える。 ・活用状況調査	B	Google Chromeの使用方法などの全体研修及び各科リーダー研修を計画的に実施できた。
キャリア教育 (進路指導)	目的意識の確立	進路ガイドの検討	3年間を見通した進路マップの作成	3年間を見通した意図的・計画的・組織的に進路指導を推進する。	A	進路ガイドのレイアウトを変更し、進学の受験方式の名称や面接質問欄を追加した。
	各学年・学科・教科への進路情報提供		学校紹介の就職率100% 進学決定率100%	きめ細かな指導を重ね、一人ひとりの生徒の進路意識を高揚させ、生徒の進路実現に努める。	B	進学は100%合格。就職は8名の不調を出し、同じ企業を複数受験する危険を感じた。
	企業情報の共有		学年末までに、1年生の5割以上、2年生の7割以上が自己の目標を決定する	大学・企業・地域(行政機関・商工会議所)との連携をさらに充実させ、進路ガイダンス等の充実を図る。	B	インターンシップや企業見学を実施。3学期、行政・商工会等と連携し、企業ガイダンスの予定。
生徒指導	生徒支援の充実	不登校者数 ・転退学者数	5人(昨年度7人)	生徒指導連絡会や生徒支援室会議での情報の有効活用とSSWやSCとの連携	C	転・退学者は、1年3人、2年2人、3年1人の6人。支援室会議を毎週行いながら、学年と支援室で家庭訪問等やSC面談を連携して行うことができた。
	指導票休止へ向けた取り組み	生徒会と連携し規範意識の向上を図る	総指導票発行枚数	総指導票発行枚数 300枚以下	C	来年度より生徒会と保護者会と連携しながら「今より更に良い学校にするためには」という考えの基、校則の変更を行っていかなければならないため目標を掲げてきたが、具体的方策に対する対策が取れないまま目標を大きく上回ってしまった。
	交通安全教育の徹底	バイク通学生に対しては年2回の原付講習会の徹底。自転車通学生徒歩通学生徒に関しては街頭指導や交通講話等の機会を増やす	交通違反・事故件数	0件(昨年度10件)	C	違反や事故が発生する度に利用者全員を集めて注意喚起を行ってきたが減らすことができなかった。特に事故の内容が注意欠陥によるものや判断ミスによるものが多く、徹底の難しさが年々増している。また、コロナウイルス感染症拡大に伴い原付講習会を開催できないことも要因としてあげられるため新たな指導方法も考えなければならない。
	主権者教育の充実	意識の高揚、選挙違反者数	全ての生徒が選挙に行くという意識を持つ。	実際の選挙を意識した生徒会役員改選選挙の実施。	B	生徒会役員改選と合わせて主権者教育を実施したことで、実際の選挙を想定しながら投票することができた。
人権教育の推進	困り感を抱える生徒の把握	支援室会議と校内委員会の充実	支援室会議(週1回)、校内委員会(7・10月)の実施	困り感のある生徒情報の収集。	B	支援室会議を学年主任、養護教諭、教頭先生の出席で行うことができた。情報の共有と家庭訪問やSC面談等の支援を行った。
	組織的な支援体制の構築	校内研修の実施および職員のSSW・SCとの面談の促進	校内研修(年1回)の実施 職員とSSW・SCとの面談の実施	教職員間の連携とSSW・SCへのつながり。	B	校内研修は、生徒理解研修として計3回を実施し、生徒の課題や支援等について情報を共有することができた。職員とSCとの面談では、学級でのSSTやカウンセリングの手法等について助言を得ることができた。
	個々の生徒に柔軟に対応した支援や指導の充実	支援策の検討	個別の指導計画、支援計画作成とその活用	中学校や関係機関と連携し、支援策など情報共有と職員への周知。	B	入学時に中学校と生徒について全生徒について引継を行った。また、個別の教育支援計画については、中学校より引き継いだ生徒については、全員作成した。各学期には生徒理解研修を行い、気になる生徒、支援計画を作成している生徒について情報共有を行った。
いじめの防止等	いじめのない学校づくり	いじめの早期発見、早期対応の取組	次回アンケートの「いじめが継続している」0件	いじめの防止のため、年間5回アンケートを実施	A	いじめが発生し発見までのスピードや見守り態勢の充実などは年々増している実感している。その根拠としていじめが継続しているという案件は無い。

			月1回の生徒の状況に関する情報共有の実施	生徒指導連絡委員会での情報共有	A	学年主任が中心となり情報共有に努め、連携した組織作りができていたため状況把握のスピード感は向上した。
		いじめ事案数	0人 (昨年度10人)	いじめの発生しない環境作り。いじめ匿名通報アプリの一斉導入	C	案件的には7名の事案をいじめとして認定し対応にあたっている。また学校があまり楽しくないという生徒達に対していじめに発展していく可能性を排除できないため、学習規律の向上を全職員で意識して取り組むことで様々な規範意識向上に努められトラブル解消につながると考えている。
地域連携 (学校運営協議会等)	地域連携の充実	「かざぐるま」の活動	地域のイベントを中心に、出店活動(地域イベントへ10件出店)	地元イベントとの連携の中で地域の人達との交流を盛んにする。	-	「来民門前市」をはじめとする地元イベントが中止になり、実行できなかったため、評価なし。
		技術/災害ボランティアの活動	内容の充実を図り、技術ボランティア年間10件以上実施(昨年度9件)、災害ボランティア備蓄300本(昨年寄贈本数244本)	中学校説明会や学校広報誌、メディア等で取組をPRする。	B	足踏み式アルコール消毒噴射機の製作を中心に活動し、中学校や地域へ本校のPRをできたこと手応えを感じている。
	コミュニティ・スクールの機能の充実	学校運営協議会の活動	総合型として年2回の会議を実施し、地域との連携を充実する。	地域の研修会やイベント等へ積極的に参加する。	B	総合型の学校運営協議会を年2回開催。地域代表、行政、消防、警察、近隣中学校、保護者代表と防災に関する協議することをおして、地域との繋がりを深める契機となった。
		地域と連携した取組の実施	産業、近隣学校、行政との連携の強化。	学校運営協議会等にて本校の取組を説明し、共通理解を図った上で連携を強化する。	B	山鹿市教育委員会主催の山鹿創生塾へ生徒会を中心となり参加した。また、OneTeamプロジェクトにおける地域連携事業に取り組んだ。

4 学校関係者評価
(1) 評価された点
<p>ア 学校評価の結果について、「専門的な知識が生かされて、資格取得等、生徒及び先生方が日頃頑張られていることがよく分かる結果。更に発展できるよう応援をさせて頂きたい」、「全体的に学校側の努力が見えており、今後もそれぞれの評価項目を深化させて頂きたい」等の評価をいただいた。</p> <p>イ 新型コロナウイルス感染症への対応については、「徹底したコロナ対策ができています」との評価をいただいた。</p> <p>ウ 防災への取り組みについて、「先生方、生徒さん全員が真剣に取り組む姿勢が素晴らしい」との評価をいただいた。また、「安全の確保への対応力は常に必要になることなので、何回訓練してもそのときにならないと行動が読めないのは当たり前であり、「ない」より「知らない」がもっと恐いことなので、続けてほしい」との意見をいただいた。</p>
(2) 課題として指摘された点
<p>ア 学校評価の結果について、「1年時からの目標設定を明確にして、資格取得や学習に取り組む姿勢を強化してほしい」、「数値目標を掲げている項目については、成果欄にも数値結果を記載していただくと、より分かりやすくなるものと思う」との指摘をいただいた。</p> <p>イ 校則については、「社会通念上で過度なものではないかを随時検討して欲しい」、「今後も時間をかけて見直していく必要はあると思う」との指摘をいただいた。</p> <p>ウ 入学選抜状況について今後を心配する声があり、「広報活動の充実により認知度向上に努めてほしい」との意見をいただいた。</p>

5 総合評価
(1) 本年度の学校教育目標
<p>学校評価アンケートにおいて、「本校での高校生活は充実している」の設問に対して、生徒85%、保護者90%が肯定的な回答をしており、「本校に入学させてよかった」との設問に対して、生徒91%、保護者92%が肯定的な回答をした。また、「専門的な職業能力の育成に向けた指導が適切にできている」の項目については、生徒97%、保護者89%であり、「社会の一員としての意識(公平、公正、勤労、奉仕、公共心など)をはぐくむ指導は十分にできている」の項目については、生徒94%、保護者84%が肯定的な回答をした。「誠実で自立した心豊かな産業人の育成」を目指す本校の教育目標に対して生徒及び保護者から一定の評価を受ける結果となった。課題も残されているが、本年度の学校教育目標については概ね実現することができた。</p>

(2) 本年度の重点目標

- ア 学力の向上と教科指導の充実について、チャレンジタイムの有効活用や授業アンケートの実施等、基礎学力の向上や指導力向上に対する取り組みが継続して行われており、生徒アンケートにおける「分かる授業、興味・関心を持てるような授業ができています」の項目では 91%の生徒が肯定的な回答をした。次年度から新学習指導要領に対応する必要があるため、4月からスムーズに移行できるよう着実に準備していきたい。
- イ 特別支援教育の推進及びいじめの防止等については、生徒支援室に2名の職員が常駐しており、支援が必要な生徒に対して手厚いサポートを行う体制ができています。また、生徒指導連絡委員会を月に1回実施しており、校長も含めた情報共有及び支援体制の指示を迅速に行っている。いじめ事案についても上記の体制によって早期発見・早期対応ができており、深刻化する前の見守りができています。
- ウ 人権教育、道徳教育、主権者教育の充実について、新型コロナウイルス対策のため8月末の時点で多くの校外研修が中止またはオンデマンド配信となり参加者は 10 名であった。水俣病の教訓を伝える高等学校等訪問事業の講演会では、アンケート結果は平均 3.0 だった。水俣病患者の方々の方々の生活をサポートされている講師の方から詳細な説明があり、理解を深めることができた。2学期の校外研修の参加者は、実施された研修で 10 名、残りの職員も県人教大会ややまが人権フェスティバルなどのオンデマンド配信の研修に参加した。校内職員研修では、「人権の尊重される授業づくり」の実践に向けて、各教科で人権教育全体計画の教科の目標設定に取り組んだ。

(3) 自己評価総括表

- ア 体験入学の参加者数は、近隣校との日程が重なったこともあり 95 名と振るわなかった。その結果はそのまま入学志願者数の減少につながり、次年度の生徒募集に課題が残ることとなった。広報部、各科を中心として本校教育の魅力発信に努めていきたい。
- イ 観点別学習状況評価に関する教務規定の作成については、教育課程検討委員会を通して各教科において定期考査後のシミュレーションを実施し、その結果を受けて、次年度の方針を定めることができた。
- ウ 進路指導については、3年間を見通した意図的・計画的・組織的な進路指導を推進した。きめ細かな指導を重ね、一人ひとりの生徒の進路意識を高揚させ、生徒の進路実現に努めたことで、進学・就職とも 100%の進路実現を達成した。
- エ 生徒指導に関しては、毎月の生徒指導連絡委員会や生徒支援室会議における情報共有を行い、生徒指導部と生徒支援室が連携して学年団を適切にサポートすることができた。家庭訪問やSC面談を連携して行うことができた。指導票システムが機能しており、全職員で生徒指導に関わる意識ができています。

6 次年度への課題・改善方策

(1) 生徒確保に向けた取組

入学者選抜については、昨年度より受検者が減少した。かなり厳しい結果として受け止めている。中学校に出向いての高校説明会や体験入学の内容を見直す時期に来ていると感じている。広報部や各科職員を中心として早めに検討に取り掛かる必要がある。

(2) 新学習指導要領に対応した指導と評価の計画

各教科にて、1年間かけて評価のシミュレーション等を行い検討を行ってきた。各教科にて観点別の重みも数パターン検討するなど、十分に検討することができた。次年度の1年生に対応した指導と評価の計画も各教科にて作成済みであるので、今後は実際に指導を行いながらブラッシュアップしていきたい。

(3) 一人一台端末等の活用

Google Classroom の活用をスムーズに行うためのクラス毎の研修やマニュアルを作成することができた。1人1台端末や電子黒板を活用した授業にチャレンジしている先生方が多く、活用においての意見を踏まえた機材の調達や研修を実施できた。今後は更に踏み込んだ活用を促すため、Google Meet を活用した SHR やリモート授業の在り方を今後検討していく予定である。

(4) 校則の見直し

生徒や保護者、学校運営協議会等の意見も取り入れながら校則を見直していくために、「今以上の学校にするためには何が必要なのか」ということを念頭に掲げ、今後とも粘り強く取り組んでいきたい。

令和3年度（2021年度）学校評価アンケート結果考察

1 はじめに

令和3年度学校評価アンケートは、生徒・保護者及び職員に対して実施した。回答数は、生徒286人、保護者276、職員49人で、回収率は生徒98.6%、保護者95.2%であった。延べ45項目についての質問事項の内容は、学校全般について6項目、教務関係事項8項目、進路関係事項5項目、生徒指導関係事項11項目、総務関係事項5項目、保健体育関係事項6項目、専門教育関係事項4項目となっている。各対象別の質問項目は、生徒対象で37項目、保護者対象で33項目及び意見記述欄、職員対象で40項目を設定した。評価については4段階評価を用いている。評価4を「よくあてはまる」、評価3が「ややあてはまる」、評価2が「あまりあてはまらない」、評価1が「全くあてはまらない」、として評価平均が4に近いほど評価が高い設定とした。

集計方法としては、今年度から生徒に一人一台端末が整備されたことで、Google Formsを利用することができ、集計作業の大幅な省力化を図ることができた。

2 結果分析

(1) 生徒評価について

ほぼ全ての項目において、昨年度よりも高い評価となった。一番高い伸びを見せたものは、「いじめなど生徒指導全般への対応は適切にできている」の項目で、昨年度から0.3p伸びた。

最高値を示した項目は評価平均3.67の「図書館は利用しやすい環境になっている」(昨年度3.44)及び「実習時の安全管理の指導は適切にできている」(昨年度3.49)の項目であった。

次点では、評価平均3.64の「実習室が整理整頓され、安全で学習にふさわしい環境が整っている」(昨年度3.47)の項目であった。

(2) 保護者評価について

生徒の評価同様、ほぼ全ての項目で、昨年度よりも高い評価となった。最高評価を得た項目は、「挨拶や服装など身だしなみの指導が適切」及び「地域や校内で美化活動に積極的に取り組み校内はきれいに整備されている」の項目が同点で評価平均3.53(昨年度3.43及び3.36)であった。次点が「本校に入学させてよかったと思っている」の項目で、評価平均3.52(昨年度3.25)であった。

(3) 職員評価について

生徒評価及び保護者評価が、ほぼすべての項目で昨年度よりも高い評価を得たのに対して、職員評価は昨年度よりも17の項目で低い評価を下した結果となった。

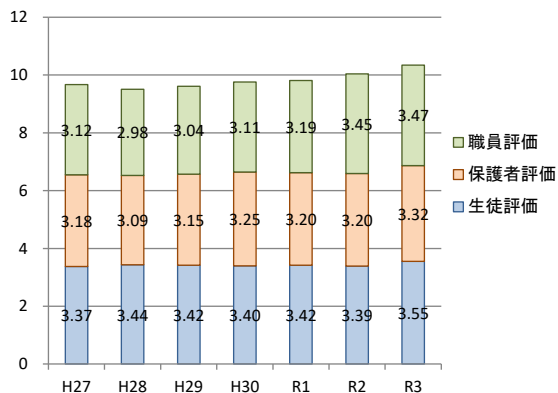
最高評価となったのは、「実習時の安全管理の指導は適切にできている」で、評価平均3.80(昨年度3.84)であり、次点は「安全面・健康面に十分配慮した指導ができています」で、評価平均3.78(昨年度3.71)であった。一番低い評価となったのは、「校務改善で生徒と向き合う時間が以前より増加した」の評価平均2.96(昨年度2.84)であった。

職員による自己評価は、昨年度よりも厳しい評価を下した項目が多かったものの、全体を平均した評価平均は3.53であり、過去7年間で最も高い値となった。生徒の安全面を中心として高い値を維持しているものの、コロナ禍における職員の業務改善に課題が残る結果となった。

(4) 過年度比較について

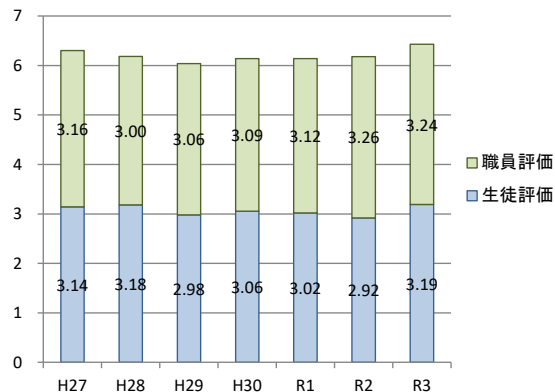
いくつかの特徴的な項目について、本年度を含めた過去7年間の評価平均を棒グラフで表した。

ア 宿題や課題への取組



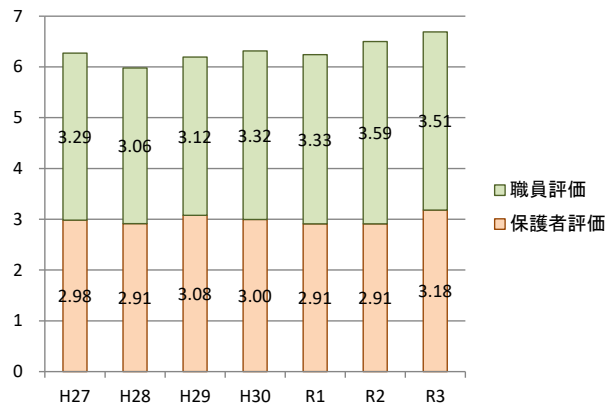
学習課題への取組状況は上昇傾向にある。生徒自身の意識及び保護者・職員の評価も過去7年間での最高値を示した。今後は、一人一台端末等の学習環境も活用しつつ、主体的に学びに向かう姿勢を伸ばしていきたい。

イ 分かる授業、興味・関心を引く授業への取組



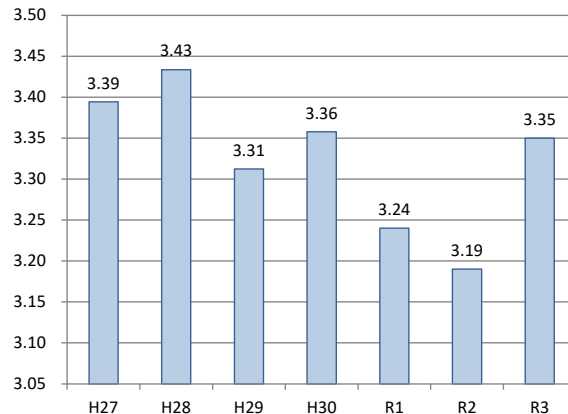
本校における授業改善の取組は従来から継続的に取り組んでいるところであり、分かる授業、そして興味・関心を引く授業は、最重要課題の一つである。職員による自己評価は昨年度から 0.02p 低下したものの、生徒の評価は 0.27p 上昇した。

ウ 中退・不登校への取組



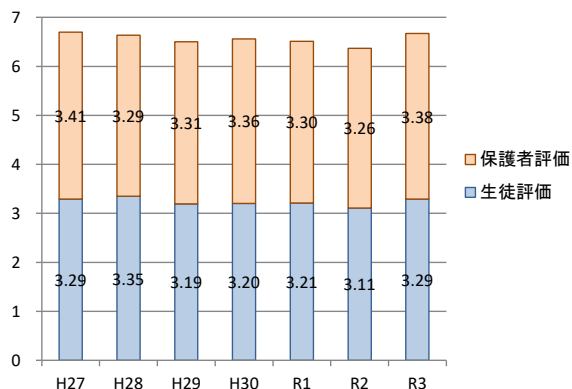
本校における中退・不登校への取組は、担任・学年を中心として、生徒支援室や生徒指導部、スクールカウンセラーなど、あらゆる部署が主体的に関わりながら生徒を見守っている。積極的に家庭訪問を行うなどの取組が保護者評価の上昇にも表れているものと捉えている。

エ 学校行事の充実度（生徒）



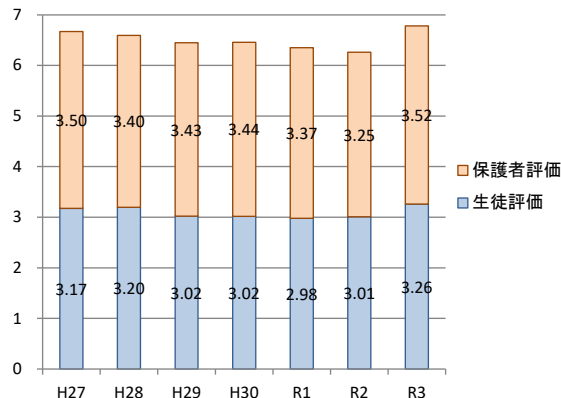
今年度は、体育大会や商工フェスタ、修学旅行など、コロナ禍において半日開催など様々な制限がある中でも開催することができた。そのことが例年並みの数値に回復した要因となったことを表している。

オ 学校生活充実度



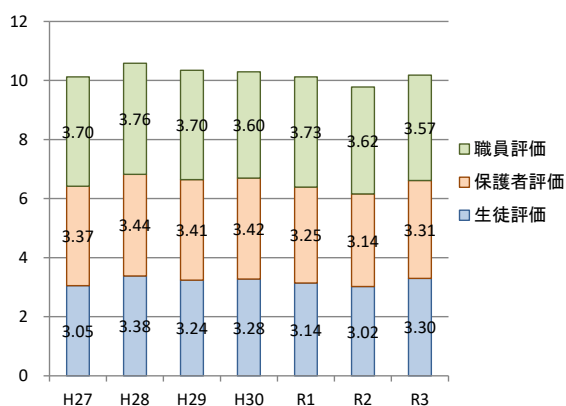
この項目は、学校行事の結果がある程度反映された結果となった。このことは、学校行事の充実が、学校生活全般にとってやはり重要な位置を占めるものであること再確認できるものとなった。コロナ禍における学校行事開催には非常に難しい判断が求められるが、でき得る限りの工夫をしていきたい。

カ 本校に入学してよかった



この項目においても、生徒・保護者とも過去7年間で最高の評価をいただいた。コロナ禍という逆境の中でも自分たちにできることを一人一人が模索し、チャレンジしてきた結果が表れたものであると捉えている。進路実現も100%を維持し続けており、引き続き学習指導・生徒指導等に力を入れていきたい。

キ 学校新聞やHP、一斉メール等による広報



体育大会を始めとするあらゆる学校行事等に保護者が参加することができなかった今年度についても、学校新聞やHP等での情報発信は重要視しているところである。生徒・保護者とも昨年度の評価よりは向上した。

ク その他「分からない」の回答について

今回のアンケートにおいて、「分からない」と回答した数は、全体で13%に達した。体育大会や商工フェスタ等の学校行事は全て生徒・職員のみで開催し、育友会総会は書面決議による実施となった。公開授業も保護者への案内を中止したことで、年間を通してほとんど学校に足を運ぶ機会がなかった一年間となった。

これに関しては、生徒の安全を最優先とした結果であるが、その分HP等を活用した情報発信について、今後とも積極的に取り組んでいきたい。

3 自由記述欄から

(1) 生徒アンケート

- ・工業系の仕事に携わりたいと思っていて、その目標が達成できた。
- ・進路のサポートがあって助かった。
- ・資格をたくさん取ることができるし、専門教科を学ぶことができる。
- ・先生方が楽しく授業をしてくれて頭に入りやすい授業をしてくれる。

(2) 保護者アンケート

- ・検定等を取っていききたいという気持ちになっている所。
- ・資格取得の課外授業は本当にありがたい。
- ・授業内容や資格取得等は、専門的なものもあり、将来に役立てていけるもの。
- ・社会人としてのマナーや厳しさに対してとても細かく指導していただき良かった。
- ・子供にとっては“きびしい”と感じている部分もあるかもしれないが、親としては本校の教育方針は素晴らしく、本当に入学して良かったと思っている。
- ・本人の頑張りが一番大事ですが、資格取得や課題研究等、意欲的に取り組んでいるのは学校のおかげと思っている。
- ・いつも学校がきれいで子どもたちが落ち着いているのは、先生方のご指導のおかげだと大変ありがたく思っている。
- ・鹿本商工の生徒は学校の外でも交通ルールをしっかり守って、挨拶やお礼を言っているのを何度も見た。先生方のご指導だと思う。鹿本商工に入学して本当に良かったと思う。
- ・普段の学校の様子をもっと公開してほしい。
- ・頭髪検査の基準を、明確に示してほしい。再検査の際は、不適切な箇所を分かりやすく指導してほしい。
- ・連絡事項、行事の内容などのお知らせを最低でも1か月前までには知らせてほしい。
- ・授業中の板書の文字は、もう少し生徒が見やすく配慮してほしい。
- ・欠席の連絡はもう少し早く電話が繋がるようにしてほしい。
- ・コロナで学校行事に保護者が参加できなかったのは残念だった。

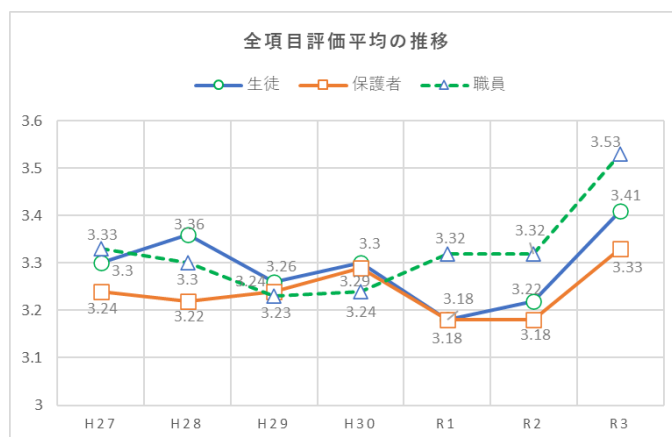
4 結果考察

本校は、専門的な知識や技術を生かしながら主体的に学び続け、地域の産業界を支える、誠実で自立した心豊かな産業人材の育成を目指した教育活動を行っている。資格取得指導にも力を入れており、商業・工業における専門性の高い資格取得も継続的に実績を上げてきた。更に今年度は、全国高校情報処理競技大会個人2位（全国出場）、全国・九州高等学校ビジネス計算

競技大会熊本県予選団体総合競技電卓の部優勝、ジャパン・マイコンカーラリー九州大会出場、アイデアロボット競技大会アイデア賞受賞、工業高校生徒研究発表熊大工学部長賞受賞、税に関する高校生の作文山鹿税務署長賞受賞、ロボットアイデア甲子園熊本大会最優秀賞受賞（全国大会出場）など、商業・工業ともに様々な快挙を成し遂げた。そのことが、今年度における進路実績にもつながっており、コロナ禍においても進路実現100%を実現することができた。

今回の学校評価アンケートの全項目の平均値をグラフに表したものが右図である。生徒・保護者・職員の意識が飛躍的に高まっていることを表しており、今年度の実績を裏付けるデータとなった。今後の鹿本商工高等学校の更なる飛躍へとつなげていくためにも、今回のアンケート結果を活かし、一つ一つの取り組みを改善していきたい。

(全項目評価平均の推移)



	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
生徒	3.30	3.36	3.26	3.30	3.18	3.22	3.41
保護者	3.24	3.22	3.24	3.29	3.18	3.18	3.33
職員	3.33	3.30	3.23	3.24	3.32	3.32	3.53